

2021/8/19-2

(オマケの英語教室 rainbow) 書庫版



今日雨上がり朝、外国人従業員の PCR 検査陽性による臨時休業期間中の厨房メンテナンスのためにお店に向かう途中、朝焼けの空に半弧形の虹が架かっていました。

少しも淡くなく、見事なくらい堂々として量感のある虹でした。

「コロナ禍に風水害。いろいろあるが、虹も出るんだ」

と自転車を止めて暫し感銘。

そういえば「虹」は英語で rainbow。

Rain は言わずと知れた「雨」

で

自分の知っている範囲では bow は「お辞儀」

雨のお辞儀？

なんのこっちゃ？

それで、あれこれ自分の頭の中を探してみると「ボーガン」という英単語が出てきました。

ボーガン、即ち「弓銃」

時々ニュースなんかで耳にする言葉です。

ということは bow というのは「弓」という意味もありそうだ。

でも「弓」と「お辞儀」がなんで同じ bow なんだ？

しかしそれらを俯瞰してみると、或共通点というか共通形が見えてきました。

何かというと、釣りをしている大物がかかったときの釣り竿のしなり方がどれにも当てはまったのです。

換言すれば「半弧形」

恐らく「お辞儀」や「弓」の語源は「半弧形」なのかもしれないなあ。

そんなことを思った朝方。

それにしても rainbow を「虹」というより「雨後の弓」というより「雨（後）のお辞儀」と言った方がなんとなくロマンチックな気がするなあ、とも思った本日の明け方でした。